

2010年 APLAC（アジア太平洋試験所認定協力機構）第16回総会及び関連会合報告

2011年1月
NITE 認定センター

2010年12月4～10日に大阪市大阪国際交流センターにおいて、アジア太平洋試験所認定協力機構（APLAC）第16回総会及び関連会議が以下の日程で開催された。今次総会はJAB、VLAC及びIAJapanで構成される試験所認定連絡会（JLAC）が合同でそのホストを務め、約2年準備を重ね、会合期間中各会議が滞りなく開催された。同総会と併行して、METI 認証課長、APLAC 議長、EA 議長等を招いた技術情報セミナーが国内向けに同場所にて開催された。

	午前	午後
2010年12月4日（土）	理事会	
5日（日）	理事会	
6日（月）	オープニングセレモニー	
	JLAC 技術情報セミナー	
	広報委員会	
	技術委員会	
7日（火）	教育訓練委員会	
	技能試験委員会	
8日（水）	MRA（相互承認）評議会	
9日（木）	MRA（相互承認）評議会	総会及び署名式
10日（金）	総会	

概要を以下に示す。

1. 日 時： 平成22年12月4日（土）～10日（金）
2. 場 所： 大阪国際交流センター（大阪市）
3. 出席者： APLAC 加盟機関及び関連機関（43 機関、22 経済地域）から136名が参加。これはこれまでで最大の参加者数となった。



4. ホスト： JLAG (JAB, VLAC, IAJapan)

日本が APLAC 会合のホストを担うのは 13 年ぶりである。

5. 会合及び結果概要

(1) Opening Ceremony (12月6日(月))

IAJapan 奈良所長による司会進行で進められ、NITE 安井理事長によるホスト側挨拶に引き続き、来賓挨拶として近畿経済産業局国吉地域経済部長に大阪の特色を交えた大変興味深いご挨拶いただいた後、APLAC 側代表として Terence Chan 議長による挨拶、最後に、ホスト側挨拶として JAB 久米理事長にご挨拶をいただいた。

(2) JLAG 技術情報セミナー (12月6日(月))

(APLAC 日本人出席者を除き、) 日本人出席者 70 名強、APLAC 参加者 20 名弱と盛況であった。IAJapan 上戸次長による司会で、冒頭、METI 頓宮認証課長から、「我が国の試験所認定制度」について基調講演をいただいたのち、APLAC の現在と将来について Terence Chan 現 APLAC 議長から、EU の状況について、Graham Talbot EA 議長から、米国の状況を APLAC 理事 (米国認定機関 A2LA) の Roxanne Robinson 氏から、また、ASEAN の状況を、APLAC 新議長 (APLAC 理事、シンガポール国認定機関 SAC 代表) の Chan Kwein Fern 氏からそれぞれご講演いただいた。特に、今年の 1 月から施行された欧州の認定に係る新たな規則に基づく制度に係る実施状況、今後の課題等について、また、米国のエネルギースターや CPSC 等の法規制に係る ILAC MRA 認定ラボの試験結果採用等興味深い話も多く、質疑応答も核心をついた内容のやりとりもあり、参加者にとって十分に満足な内容となった。

(3) APLAC 総会 (12月9、10日)

APLAC 総会では、年 2 回開催される MRA 評議会での認定機関に係る新規 MRA 署

名及び地位の継続に係る決定事項、各委員会の1年間の活動報告、文書の新規制定及び改正状況、当該年度決算及び新年度予算、役員及び議長ポストの改選選挙等が行われる。理事については毎年半数が、また、議長については2年に1回全ポストの改選選挙が行われるが、今回の総会では、理事の半数の改選に加え、全議長及び委員長ポストの改選が行われた。APLAC議長は香港の認定機関HKASのTerence Chan氏が3期6年に到達して任期満了のため、新たな議長選出となり、シンガポールの認定機関SACのChang Kwei Fern氏が選出された。技能試験委員会委員長Dan Tholen氏が勇退し、新委員長として、IAJapanの奈良所長が選出された。残る議長、委員長ポストはすべて現職が再選された。また、各委員会にはこれまで委員長のほかに書記が指定されていたが、委員長職務の負荷を考慮して新たに副委員長を設置することとなった。

APLAC議長：(旧) Terence Chan (HKAS) → (新) Chan Kwei Fern(SAC)

(※Terence Chan氏はルールとして前議長として1年間理事会メンバーに残る。)

MRA評議会議長：(再任) Barry Ashcroft (IANZ (NZ))

理事(5名→4名)：(再任) Roxanne Robinson (A2LA)、Regina Robertson (NATA)、
Vu Xuan Thuy (BoA)、(留任) Nigel Jou (TAF)

技術委員会委員長：(再任) Trace McInturff (A2LA)

技能試験委員会委員長：(新任) 奈良広一 IAJapan所長

教育訓練委員会委員長：(再任) Zhang Mingxia (CNAS)

広報委員会委員長：(再任) Alan Patterson (NATA)

- ・各委員会からの(前日までの会合結果を踏まえた)活動報告、財務報告等があった。
- ・APMP国際機関リエゾン代表(韓国KRISS代表)からAPMP-APLAC議長会議の結果概要を含めた活動報告があった。
- ・審議事項として、APLAC文書変更手続きの改正案が示され、その方針について承認された。これにより、軽微な変更等についても正規の手続としてはコメントラウンド及び投票が必要である点について、軽微かつ形式的な変更については理事会による確認の上で文書改正を可能となった。
- ・次回総会は、2011年9月10~16日 マニラ(フィリピン、ホスト認定機関：PAO)
(次々回は、2012年12月1~7日 豪(ホスト認定機関：NATA)、2013年はベトナム)

(4) MRA評議会(12月8、9日)

7件の署名地位継続のための再評価(うち1件はスコープの拡大を含む。)、1件の新規署名のための評価、1件のフォローアップ評価、1件の予備評価が審議された。日本の認定機関としてはJABが署名地位の継続が確認されたとともにスコープの拡大(検査機関認定)が認められた。新規MRAの署名として米国認定機関AIHA-LAPが試験分野において認められた。また、MRA署名地位の継続は全件が認められた(但し、一部認定機関は条件付きでの確認となった)。IAJapanではこの相互承認協定に係る評価活動に、評価チー

ムリーダーとして1件の、また、評価員としての3件の評価活動に参画し、APLAC 活動への積極的な貢献に努めている。

APLAC での相互承認協定に係る認定範囲は、試験所・校正機関分野のうち、現在、試験所、校正機関、検査機関、臨床検査機関、標準物質生産者の5分野があるが、ISO 17043 が平成22年に制定されたことを受けてMRAを技能試験プロバイダーに拡張することについて基本的に合意された。

- ・IAF/ILACのMLA/MRA文書であるA2文書の改正に伴うAPLAC MR文書の改正審議中である旨報告、また、MRA評議会手続の改良（implementation）が提案され、了承された。
- ・次回MRA評議会は、2011年5月11,12日 オークランド（NZ、ホスト認定機関：IANZ）

（5）各委員会（技術委員会、技能試験委員会、広報委員会、教育訓練委員会）

【技術委員会】

標準物質生産者認定に関し、認定シンボルのラベルへの使用に関する議論が行われたが意思決定はなされず、2011年に改正が予定されているAPLAC技術文書TC008「標準物質生産者及びその認定スコープ決定のためのAPLAC要求事項及び指針」にラベルへの認定シンボルを設けることについてオプションとして加え、その改正案をメンバーの投票に付することとされた。

臨床検査機関認定関係では、改正を検討しているAPLAC技術文書TC005「試験の不確かさ見積もり」の改正作業に臨床試験分科会主査も参加することになった。この技術文書については、ILAC/AIC及びEAが同じ内容に係る作業グループを設置することが合意されていることから、しばらくはこの活動の進捗を確認することとされた。

校正分科会関係では、APLAC技術文書TC004「試験結果及び校正結果並びに仕様への適合性の表記方法」の改正案の最終化を進めているが、（検査機関をその範囲に含めるか否かは保留として）最終案を平成22年度内に作成することが望まれた。

遠隔及び現地校正、試験に関しては、APLAC技術文書TC013「主たる活動に係る指針」案が意見募集中であるとの説明があった。

ソフトウェア試験の認定に関しては、その認定に関する何らかの指針が必要とされている。

【その他の委員会】

技能試験委員会では、APLAC技能試験の進捗状況として、9件の最終報告書が発行（うち2件はIAJapan担当）され、APLACウェブメンバーサイトに掲載されたこと、また、現在11件が実施中である旨の報告があった。ISO/IEC 17043:2010については複数の国で翻訳が行われており、日本は2011年末にJIS化される旨IAJapanから説明した。

広報関係では、ILAC等での広報活動関係の報告があったほか2011年の活動計画が提案され、承認された。なお、6月のAPLAC NewsをIAJapanが担当することとなった。

教育訓練委員会では、2010年の研修の実施結果（ISO17011研修、ISO Guide34研修、

ISO 17043 研修) について報告があった。2011 年の研修関係では、技能試験の統計的手法に係る研修を来年度デリーで開催することが了承された。また、APLAC 評価に係る経験蓄積、活用のための事例 DB を構築する旨の報告があった。

6. その他

APLAC 総会の主催者がその規約で求められている会議室の確保運営、宿泊の手配、出席者名簿の整備及び管理、受付、オープニングセレモニー等イベントの開催、会合開催中の昼食の提供、カンファレンスディナーの提供等の準備からその実施や会合当日の事務局としての出席者の対応をするという経験は各認定機関の若手職員にとって貴重な経験となり、また、一連の作業、当日の出席者の対応等を通じて各国認定機関の職員との距離が縮まったことは、会合開催成功以外の別の意味での大きな成果となった。